

胃がん大腸がん検診推進ワーキンググループ

(平成 26 年度)

胃がん大腸がん検診推進ワーキンググループ報告書

広島県地域保健対策協議会 胃がん大腸がん検診推進ワーキンググループ

委員長 岡島 正純

I. はじめに

広島県の第2次がん対策推進計画では、全体目標のひとつとして、がんによる死亡者数の減少を掲げ、具体的には平成23年度から5年間で75歳未満のがんによる年齢調整死亡率を10%減少させることを数値目標としている。がんによる死亡者を減少させるためには、がん検診によりがんを早期に発見し、治療することが有効であり、国が定める指針に基づいた方法でがん検診を実施するとともに、効果の高いがん検診を実施するための精度管理が重要となる。

現在、県内の市町では、厚生労働省が定めた「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」に基づき、死亡率減少効果を示す科学的根拠がある検査方法として推奨する、胃がん、肺がん、大腸がん、子宮頸がん及び乳がんの5種類のがん検診を実施している。検診の実施に当たっては適切な方法及び精度管理の下で実施することとされており、市町及び検診実施機関が精密検査の受診結果を確実に把握することが必要である。このことから、広島県地域保健対策協議会では、県内のがん検診・精密検査の精度の均てん化、また、市町における検査結果の把握・データ管理の利便性の向上などを目的に、1次検診及び精密検査結果報告書等標準様式の作成について、取り組みを進めている。

平成22年(2010年)度には、先行して乳がん及び子宮頸がんに係る標準様式を作成した。この標準様式によって、県内の市町に検診およびそのデータ管理に関する周知が行われ、個別検診において未把握率の改善が認められる等の効果を得ている。

II. 胃がん大腸がんの標準様式の作成

今年度は、胃がんおよび大腸がん検診に係る標準様式を作成することとし、胃がんについては胃部X線検査および胃内視鏡検査、大腸がんについては、便潜血検査に係る1次検診結果票様式、精密検査紹介状及び精密検査結果票様式について、検討を行った。

結果、「胃がん検診(胃部X線)及び精密検査結果報告に係る報告様式」(標準様式1)、「胃がん検診(胃内視鏡)及び精密検査結果報告に係る報告様式」(標準様式2)および「大腸がん検診及び精密検査結果報告に係る報告様式」(標準様式3)、の3種類を完成させ、それぞれの様式に係る使用方法を参考として添付した。

これらの特徴として、市町及び検診実施機関などが精密検査結果を把握しやすいよう、1次検診結果票様式については、一次検診実施機関控、市町控、本人交付用の3枚複写、精密検査結果票様式については、精密検査実施機関控、一次検診実施機関控、市町控の3枚複写となっている。

なお、作成した標準様式については、広島県から各市町に対し情報提供を行い、様式の普及に努めている。

III. 今後に向けて

今後は、子宮頸がん及び乳がんとともに胃がん、大腸がん、の標準様式について一層の普及と必要な改正等様式の管理を行うこと、さらに未整備の肺がん検診の標準様式作成の援助を行っていく。

広島県地域保健対策協議会 胃がん大腸がん検診推進ワーキンググループ

委員長	岡島 正純	広島市民病院
委員	大原 英司	東広島医療センター
	岡本 志朗	呉共済病院
	金光 義雅	広島県健康福祉局がん対策課
	北台 靖彦	広島大学大学院医歯薬保健学研究院
	桑原 正雄	広島県医師会
	島 秀行	広島市医師会
	谷 洋	佐伯地区医師会
	趙 成大	市立三次中央病院
	豊田 秀三	広島県医師会
	永田 信二	安佐市民病院
	中西 幸造	広島市医師会
	西岡 智司	福山市医師会
	日山 亨	広島大学保健管理センター
	檜谷 義美	広島県医師会
	平櫛 順仁	尾道市医師会
	松田 尚美	広島市健康福祉局保健部保健医療課
	山田 博康	広島県医師会
	吉原 正治	広島大学保健管理センター